

製品名: TLK1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18982

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	TLK1
別名	TLK1; KIAA0137; Serine/threonine-protein kinase tousled-like 1; PKU-beta; Tousled-like kinase 1
遺伝子 ID	9874.0
SwissProt ID	Q9UKI8
免疫原	抗血清はヒト TLK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 730-779

背景

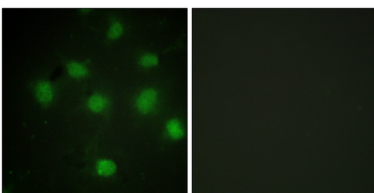
触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: 細胞周期によって調節され、S 期に

最大活性を示す。Ser-743 のリン酸化によって不活性化されるが、これはおそらく CHK1 によるものと考えられる。機能: S 期における DNA 二本鎖切断の発生後、リン酸化によって迅速かつ一時的に阻害される。これは細胞周期チェックポイントおよび ATM 経路に依存しており、クロマチン構築に関わるプロセスを制御すると考えられる。アイソフォーム 3 は t-SNARE SNAP23 をリン酸化して安定性を高め、シンキシンとの会合を促進する。アイソフォーム 3 は DSB の修復を促進することで細胞を電離放射線から保護する。In vitro では、ヒストン H3 の 'Ser-10' をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーです。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: TLK2 とヘテロ二量体を形成します。ASF1A および ASF1B と相互作用します。組織特異性: 広く発現しています。胎児胎盤、肝臓、腎臓、脾臓に存在しますが、心臓や骨格筋には存在しません。成体細胞株にも見られます。アイソフォーム 3 は、調べたすべての組織で普遍的に発現しています。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質です。補因子: マグネシウム。酵素調節: 細胞周期によって調節され、S 期に最大活性となります。Ser-743 のリン酸化によって不活性化されますが、これは CHK1 によるものと考えられます。機能: S 期における DNA 二本鎖切断の発生に続いて、リン酸化によって迅速かつ一時的に阻害されます。これは細胞周期チェックポイントおよび ATM 経路に依存しており、クロマチン組み立てに関与するプロセスを制御すると考えられます。アイソフォーム 3 は t-SNARE SNAP23 をリン酸化して安定性を高め、シンキシンによる組み立てを促進します。アイソフォーム 3 は、DSB の修復を促進することで、細胞を電離放射線から保護します。in vitro では、ヒストン H3 の 'Ser-10' をリン酸化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: TLK2 とヘテロ二量体を形成します。ASF1A および ASF1B と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。胎児胎盤、肝臓、腎臓、脾臓に存在するが、心臓や骨格筋には存在しない。成体細胞株にも存在する。アイソフォーム 3 は、調べたすべての組織で普遍的に発現している。

研究分野

-

画像データ



TLK1 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。